



明瞭な色変化で糖濃度を測るセンサー

世界的に、糖尿病患者は急速に増えています。2030年には現在の約3億人強から1.5倍ほどになると予想されています。

糖質インターフェイスとして注目されているボロン酸を用いて、血液や尿などのサンプル液（生体中のグルコースなどの糖を含む液）に浸すだけで、簡単に糖濃度を測定することができるセンサーを開発しました。

糖尿病の治療・予防・管理や、食物の甘さのチェックなどにおいて、一般生活者でも糖濃度を容易に、精度よく測定できる視認検査です。

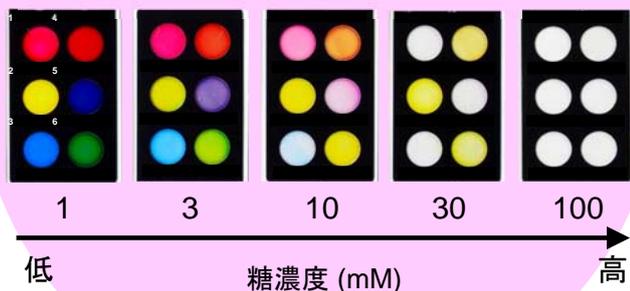
簡便に
誰もが利用できる
糖センサー



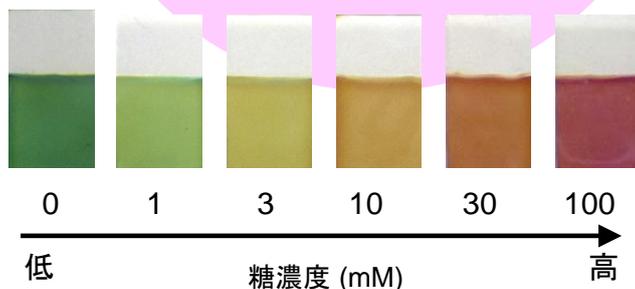
測定したい溶液の、糖濃度が濃くなるにつれて、多彩な色調変化を示し、目視による測定が可能となります。

糖濃度により着脱色する薄い膜を、センサーの基板であるガラスの表面に形成させます。

用いる色素の種類により、糖濃度への応答感度や応答速度が異なる。



異なる色素により着色した6つのスポットから構成される糖センサー



“交通信号式”の色調変化

簡便で高耐久性があり、温度や湿度の影響による性能低下が起こりにくく長期の保存が可能、などの特長があります。